

売上アップを目指す経営者の方へ

オンラインセミナー

中小事業者のための新しい ビジネスモデル構築 チャレンジセミナー

1.15 **水** 開始
19:00 - 20:00

各専門家によるリレー講義

(詳細は裏面参照)



少人数制



講義後1週間はオンデマンド視聴可



各専門家によるリレー講義 (60分×10回) で学ぶ!

参加費

学会員 50,000円

学会員以外 80,000円

※本講座の申込時に産学連携学会に同時に入会される方は学会員価格になります。参加費の支払方法は申込後、別途メールにて案内します。

講師

石塚悟史 (高知大学 副学長、産学連携学会会長)

菅万希子 (関西医療大学教授、産学連携学会副会長)

伊藤慎一 (秋田大学准教授、産学連携学会副会長)

米虫節夫 (大阪公立大学大学院客員教授、日本防菌防霉学会名誉会長、NPO法人食品安全ネットワーク最高顧問、NPO法人農楽マッチ勉強会副理事長)

定員

20名程度 (最小開講人数あり)

主催

産学連携学会 人材開発委員会

コーディネーター

奥田貢司 ((株)食の安全戦略研究所 代表取締役)

お申込みはこちらから

右記QRコードか産学連携学会ホームページから、12月20日(金)までに
お申し込みください。

ネットで検索



産学連携学会



お問い合わせ

Mail food.safety.src@gmail.com

担当: 奥田 ((株)食の安全戦略研究所)

件名には、必ず「産学連携学会 人材開発委員会講座 申込み」とご記入ください。4日以内に受付の返信がない場合は、必ず再送をお願いします。

留意事項

※2月13及び2月20日は木曜日となります。

※本講義の内容の複製、編集・加工、録画内容を第三者に提供することは禁止です。

<p>第1回 1/15</p>	<p>本講座内容と産学連携によるビジネスモデル / 石塚悟史 産学連携による食品関連のプロジェクトの事例を紹介し、事業化するための秘訣や注意すべきポイントについて概説します。</p>
<p>第2回 1/22</p>	<p>マーケティングとブランディングⅠ：経営視点とマーケティング / 菅万希子 食品業界のマーケティングも他の業界と基本は同じです。ニーズとトレンド分析、競合の分析、差別化、セグメントとターゲット、商品開発とブランディング、プロモーションです。基本と最近のトレンドとして、ウェルビーイング食、プラントベースフード、腸内環境の改善、エシカル消費、高付加価値商品などについて説明し、自社に取り入れる可能性とあわせて、それらをブランド化する方法を基本に沿って具体的に明らかにしていきます。事前課題の提出があります。</p>
<p>第3回 1/29</p>	<p>マーケティングとブランディングⅡ：経営戦略のブランディング / 菅万希子 第2回講義での議論と逆方向から、規模の小さな企業の成功事例をとりあげてなぜブランディングが成功したか、その経営戦略とブランディングのあり方を具体的に議論します。顧客とのコミュニケーションの重要性に焦点をあてます。独自性、ストーリー、高品質、デザイン、持続可能とエシカル、それぞれの項目について自社の取り組みの分析を試みます。</p>
<p>第4回 2/5</p>	<p>経営と知財管理Ⅰ：社内の知財管理の再確認 / 伊藤慎一 企業経営の重要戦略の一つとして位置づけられている知的財産権法は新規開発を進める上で非常に重要です。一方で社内の知財管理をみると知財部門で取り扱った内容が、開発部門などでビジネス応用しにくいなどという意見もあります。知財が経営シナジーとどのように連携するべきかを事例を産業財産権四法の説明しながら概説します。</p>
<p>第5回 2/13</p>	<p>経営と知財管理Ⅱ：知財管理による経営拡大 / 伊藤慎一 企業戦略では、特定の特許の存在が、その後大きく売上げに貢献したという事例は多くあります。その場合、知的財産権はどのように評価されるべきか。無形資産である知的財産の値付けおよび対外的な価値交渉の理解、職務発明における社内算定の手法があります。さらにはパーニーのケイパビリティ型戦略とポーターのポジショニング型戦略の2つの視点から「知的創造サイクルが企業にとって理想的に回る」とは、どういうことかを概説します。</p>
<p>第6回 2/20</p>	<p>TQMによる品質管理：デミング理論により米国企業の品質管理活動の復活 / 米虫節夫 1980年6月米国NBCテレビ”If Japan can, Why can't we?”放映後、米国ではデミング（William Edwards Deming：1900-1993）が大きく再評価されました。放映以前の米国企業は、製造された製品を検査し合格品をセールスマンがどのように売り歩くのマーケット計画による仕組みが中心でした。デミングはマーケットでの販売実績だけの評価ではなく、マネジメントシステムを考え直すことを提唱しました。当時の米国の品質管理の状況とデミングによるマネジメントについて概説します。</p>
<p>第7回 2/26</p>	<p>TQCと食品安全マネジメント：デミングの思想と日本的品質管理活動 / 米虫節夫 第二次世界大戦後、米国企業ではTQMによる統計的手法への関心が無くなっていました。1950年に日本から招待されたデミングは工業製品の品質管理を向上させるために講演会を行いました。1951年日本の品質管理の研究と普及活動を発展させるために「デミング賞」を創設し、日本製品の飛躍的な品質管理の向上に貢献する個人や企業を表彰しました。総合的な品質管理手法（TQC：Total Quality Control）食品安全に対して国際的なISO9000シリーズとの枠組みの中に位置づけられていることを概説します。</p>
<p>第8回 3/5</p>	<p>地域社会のまちづくりと人材育成 / 石塚悟史 高知県で実施している食品産業人材の育成に関する取り組みを紹介するとともに、食品産業人材の育成を安く効果的に進める方法について解説します。</p>
<p>第9回 3/12</p>	<p>産学官連携に高知県農業のDXによる変革 / 石塚悟史 食料問題が顕在化するなか、食品業界において強靱なサプライチェーンの構築は必須です。高知県における農業のDXに関する取り組みを紹介するとともに、国の法改正やスマート農業のトレンドなどから見えてくる食品業界の目指すべき方向性について考えます。</p>
<p>第10回 3/26</p>	<p>本講座のまとめ・オンラインによる修了テスト / 奥田貢司 10回目の講座の終了後にオンラインによる理解度テストを実施します。合格者に対して、人材開発委員会から本講座の修了証をお渡します。</p>